



# 黒島魂

～しまごころ～

## 多くのことを体験した 島外学習！

新型コロナウイルス感染症の影響でしばらく実施できていなかった1～4年生が対象となる島外学習を6月18日（火）に実施いたしました。

チャーター船に乗って相浦港についた後、初めて松浦鉄道やバスに乗る児童もいました。緊張もあってか皆静かに過ごしていました。マナーよく乗車できて感心いたしました。整理券と乗車料金を機械に投入した後の満足気な表情がとても良かったです。

市立図書館では、学芸員の方に館内を案内していただいた後、自分たちの読みたい本を一生懸命探し、一人二冊ずつ借りました。学校以外で本を借りることが初めての児童が多く、借りた本をまじまじ見る姿が印象的でした。返却日までしっかり読み終えてほしいと思います。

佐世保空襲資料館では、子供たちが熱心に話を聞く姿にとても感心いたしました。説明して下さる方も時間がたつのを忘れて約70分間、佐世保空襲の様子や戦争当時生活についてのお話を聞くことができました。

6月28日午後11時58分から約2時間、141機のB29爆撃機が焼夷弾約20万発を投下し、家屋等が焼失し1,200人以上の方がお亡くなりになりました。

お話の中で、特に印象に残ったことが、二つあります。一つ目は、どうすれば効果的に日本にダメージを与えることができるかを研究し、木造建築が多い日本家屋の特性に目を付け焼夷弾を開発し投下するに至ったこと。

二つ目は、竹やり訓練をしていた女学生が先生から「竹やりのつき方が力強くとても良い」とみんなの前でほめられたときうれしくなったが、戦争が終わってふとそのことを思い返すと人を殺すのが上手だとほめられたのだとわかり、とても恐ろしくなったというお話です。

普段は、誰もが「命は大切だ」と言っているけれど、いざ戦争になるとそのように考えられなくなるということがよくわかる史実だと感じました。

6月28日（金）平和集会で子供たちの発表があります。子供たち一人一人がどんな学びをしたのかを早く知りたいですね。

